

楽しく学ぼう屋久島のこと

屋久島学

ソサエティ 2017 第5回大会

Society of Yakushimaology



■日時：2017年 12/9(土)・10(日)・11(月)

■場所：屋久島離島開発総合センター（宮之浦）

屋久島学ソサエティは、島に住む人と研究者が共に学びあい、
細分化された学問分野と島の現実を横断的に結んで真の問題解決のために必要な知識を共有し、
地域社会のために具体的に活かしていくことを目指します。

入場無料

●テーマセッション1

12/9(土)

13:30~16:30

「ヤクシカ問題と屋久島の生態系管理を考える」

【屋久島研究講座】

●テーマセッション2

12/10(日)

13:30~16:30

「ヤクタネゴヨウ全木調査完遂記念シンポジウム」

【屋久島研究講座】

●ポスター発表

最新の屋久島研究の成果をポスターにして発表します。

フラッシュタイム

9日(土) 10:00~11:00

舞台上で短時間でそれぞれのポスター発表を
アピールします

コアタイム

9日(土) 11:00~12:00

10日(日) 11:00~12:00

各自のポスターの前で発表者が
研究内容の紹介と質疑応答をします

ポスターは10日閉会まで掲示します。この機会に専門家にどんどん質問しましょう！

●エクスカーション

ヤクタネゴヨウ自生地見学会「大径木を見に行こう！」

※自然に親しむ集いと共催（この催しのみ参加費と申込が必要です）

ヤクタネゴヨウの自生地の森を歩きます。屋久島の西部地域に広がる
原生的な照葉樹林の中に立つ直径2.17m、樹高30mの現存している
最大の巨樹を訪ね、ヤクタネゴヨウ自生地の森林生態系の特徴を学ぶ
観察会です。参加申込：屋久島町環境政策課 ☎42-0100（内線232）

参加費：100円（保険料） 定員：25名

申込期限：11月29日（水）

12/11(月)
8:00~13:00
「ヤクタネゴヨウ
自生地見学会」

■主催：屋久島学ソサエティ

共催：屋久島町/(公財)屋久島環境文化財団

/京都大学ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院

テーマセッション
の詳細は
裏面を見てね♪

学ぶって楽しい!



らくちゃん がくくん

入場無料です。
皆さん、お気軽に
参加してくださいね。

よみがえる江戸の宣教師（ばてれん）—シドッチ神父の遺骨の発見と複顔—

◎講演会【屋久島研究講座】11月24日（金）19:00~20:30

「シドッチ神父、その生涯と屋久島」古居智子（作家 ソサエティ会員）

◎展覧会 11月1日~12月10日 9:00~17:00（シドッチ神父の複顔、遺骨のレプリカなどを展示） 《屋久島環境文化村センターにて開催》

ソサエティが共催
する講演会です

●テーマセッション1

「ヤクシカ問題と屋久島の生態系管理を考える」

12/9(土)
13:30~16:30

オーガナイザー：湯本貴和（京都大学霊長類研究所）

趣旨：屋久島では鹿児島県や環境省・林野庁によるセンサスデータに基づいて、ヤクシカの個体数管理が試みられている。しかし、多くの関心のある屋久島町民に適切に情報が伝わっているか、はなはだ心もとない状態である。また、ヤクシカの個体数管理をどのように生態系全体の管理に結びつけていくかは、課題として残されている。このテーマセッションでは、屋久島での問題の出発点と対策の経緯をふりかえり、シカ個体数管理の国内外の実例、屋久島でおこなわれているセンサスと捕獲の実態、ヤクシカの林床植生・希少植物への影響をわかりやすく説明し、ヤクシカの個体数管理と屋久島の生態系管理をどのように進めればよいかについて討論をおこなう。

講演者

矢原徹一（九州大学大学院理学研究院）「ヤクシカと屋久島の生態系管理：出発点・経緯・今後の課題」

梶 光一（東京農工大学大学院農学研究院）「世界のシカ問題」

田中 準（環境省屋久島自然保護官事務所）「ヤクシカの現状：なにがどこまでわかったか」

手塚賢至（屋久島照葉樹林ネットワーク）「トランセクト調査からみる低地照葉樹林の多様性と保全」

揚妻直樹（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター）「ヤクシカは屋久島でどのように暮らしてきたのか？」

総合討論

●テーマセッション2

「ヤクタネゴヨウ全木調査完遂記念シンポジウム」

12/10(日)
13:30~16:30

オーガナイザー：手塚賢至（屋久島・ヤクヤネゴヨウ調査隊）

趣旨：「屋久島・ヤクタネゴヨウ調査隊」は屋久島と種子島の二島だけに自生する絶滅危惧種の五葉松、ヤクタネゴヨウの保全を目指して1999年に発足し、以来、島内に自生するすべての自生木を把握する全木調査を行ってきました。調査は自主参加のボランティアで行い、険しい山中での調査にこれまで延べ130日、1,000人の参加により、約2,300本の正確な生存位置・樹高・直径の情報が収集されています。多くの参加者、研究者、研究機関との連携を経て今年度、ついに全木の調査を完遂させました。その全容の報告とヤクタネゴヨウに関する様々な側面の研究や保全対策、種子島からの活動報告も合わせ発表し、屋久島、種子島の森林生態系において、極めて貴重なこの樹木を後世に残すための指針となるようシンポジウムを開催いたします。

講演者

金谷整一（森林総合研究所九州支所）「ヤクタネゴヨウについて」

村田政穂（東京大学大学院新領域創成科学研究科）「ヤクタネゴヨウと共生する菌根菌の探索」

中村克典（森林総合研究所東北支所）「ヤクタネゴヨウを守れ！松枯れ対策最前線」

池亀寛治/長野広美（種子島ヤクタネゴヨウ保全の会）「種子島のヤクタネゴヨウー保全の会の取り組み」

手塚賢至（屋久島・ヤクタネゴヨウ調査隊）「ついに完遂！全木調査報告」

総合討論「ヤクタネゴヨウを語る」

屋久島学ソサエティ
会員募集中
当日会場で受付ます

お問い合わせは
お気軽に
右記事務局まで

屋久島学ソサエティ事務局 手塚田津子
TEL/FAX 0997-44-2965
E-mail : office@yakushimaology.org
http://yakushimaology.